

令和3年2月24日

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会 実施報告

地方独立行政法人大阪府立病院機構
理事長 遠山 正彌 殿

大阪国際がんセンター
総長 松浦 成昭 殿

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会
委員長 北村 温美

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会設置要綱第8条第1号に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

大阪国際がんセンターにおける医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり管理者等からの聴取及び資料の閲覧等の方法によって説明を求めることにより、監査を実施した。

2. 監査の実施日並びに出席者

《開催日時》 令和3年2月24日（月） 15:00～16:45

《場 所》 大阪国際がんセンター 5階 総長会議室

《出席者》 監査委員 北村 温美（委員長）

三浦 潤

三木 祥男

センター	松浦 成昭	総長
	谷上 博信	医療安全管理責任者・副院長
	梅下 浩司	医療安全管理部門・主任部長
	小泉 素子	医療安全管理者・副看護部長
	下辻 恒久	医薬品安全管理責任者・副薬局長
	河村 一郎	感染症センター・所長
（庶務）	松田 充代	総務・広報グループサブリーダー
	中前 友花	総務・広報グループ主事

3. 監査の内容及び結果

① 当センターの DNAR の現状と課題について

がん診療を担う貴院の特性上、終末期の医療に係る患者、家族の意向を医療者が把握することが必要と考え、体制を確認した。病状の変化に伴い患者の意向を適宜確認されていること、終末期の判断や治療可能性について多職種で検討されていること、意思決定された事項がテンプレート入力され容易に検索可能であり、患者基本バーにも表示されること等を確認し、優れた取り組みと考えられた。今後も、心停止時の蘇生指示（DNAR）と終末期医療に関する患者の意思決定とが混同されないよう理解を促していくことが望ましいと思われた。

② 新型コロナウイルス感染症への対応の現況について

Covid-19 対応における「後方支援」の役割を果たすため、Covid-19 の直接診療施設と連携し、地域で必要とされるがん診療を継続することに尽力されていることを確認した。特に、頻回の職員会議、院内ホームページやニュース発行等により、最新の情報と病院の方針を職員全体が共有できる仕組みをいち早く構築され成果を上げていることは高く評価された。